

恵庭市長 原 田 裕 様



ガーデンフェスタその後事業の実施について

提言書



令和4年12月15日

ガーデンフェスタその後検討懇談会

国内最大級の花と緑の祭典「第39回全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道2022）」は、令和4年6月25日から7月24日までの30日間、花の拠点（はなふる）をメイン会場として開催し、当初目標を超える約34万人の方にご来場いただき北海道の花や緑の魅力を道内外に広く発信することができました。

そこで、フェアを一過性で終わらせるのではなく、今後も遺すものや新たに実施するものなどについて、関係者の意見聴取を行う場として「ガーデンフェスタその後検討懇談会」が開催されました。

- (1)第1回 令和4年10月17日（月） 14：00～ 恵庭市役所
 - (2)第2回 令和4年11月18日（金） 13：30～ 恵庭市役所
 - (3)第3回 令和4年12月15日（木） 15：00～ 恵庭市民会館
- 懇談会の意見を取りまとめましたので、別紙のとおり提言します。

<ガーデンフェスタその後検討懇談会 構成員名簿> （順不同・敬称略）

座長 愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院
内倉 真裕美	恵庭花のまちづくり推進会議
土谷 美紀	恵庭花のまちづくり推進会議
平井 梓	ガーデンフェスタサポーターズクラブメンバー
浅香 正人	株式会社ガーデンシティ恵庭
出南 大	恵庭商工会議所
沼倉 健一	（一社）恵庭観光協会
上野 芳裕	（公財）都市緑化機構

＜提言事項＞

○ガーデンフェスタその後事業の実施について

恵庭市では、昭和 36 年の「花いっぱい文化協会」の設立以来 60 年以上にわたり、市民が主役の「花のまちづくり」を進めてきており、この「花のまちづくり」は、年とともに拡大発展し、「都市景観大賞」や「緑の都市賞」をはじめ数々の受賞を重ねながら「花のまちえにわ」の名が全国的にも知られ、さらに新しいステージに向けた取組を進めております。

ガーデンフェスタが恵庭市をメイン会場として開催できたことで、市民の花と緑に関する意識もさらに高まったと考えております。

また、恵庭の花のまちづくりを次世代や未来へつなげていくために、これまでも取り組んできた関係団体との協議、花と緑を取り入れた暮らしの提案や普及啓発、市民や企業の参加促進の取組をしっかりと継続していくことと併せて、以下のとおり提言します。

1. 速やかに実施を検討するもの

目標	方針案	具体的な取組案
花のまちづくりの拠点がある	記念プレート等の作成	記念プレート設置
		恵庭の花のまちづくりの歴史を紹介するパネルの設置（後掲）
	はなふるの活用	はなふるを会場として花とくらし展を継続して開催する（後掲）
		はなふるで定期的にテーマソングがかけられている（後掲）
		恵庭の花のまちづくりの歴史を紹介するパネルの設置（再掲）
市民が花と緑に親しんでいる	テーマソング活用	小中学校の授業等による実施
		市役所内電話待ち受け音としての活用
		はなふるで定期的にテーマソングがかけられている（再掲）
		防災無線定時放送での活用
	花とくらし展の拡大実施	はなふるを会場として花とくらし展を継続して開催する（再掲）
サポーターズクラブで検討した内容の継続（後掲）		
市民が参加した植栽の実施		
市民に花のまちを目指すことが浸透している	ガーデンフェスタ及び全国都市緑化祭の開催を記念した日を定める	ハンギングバスケット実施
		期間延長
		記念日の制定
		記念日の木の指定
	花のまちづくりに関する広報	はなふるで定期的にテーマソングがかけられている（再掲）
小学生の副読本に掲載		
花と緑に詳しい人がいる	はなふるの活用	周知啓発事業（SNSの活用など）
		ガーデナー講習会
		造園関係者の学びの場
		次世代の学びの場
ボランティア活動が活発	市民ボランティアによる植栽活動（再掲）	市民ボランティアによる植栽活動（再掲）
		サポーターズクラブで検討した内容の継続（再掲）

「えにわ花のまちづくりプラン」で目指す形を実現するための手法として整理

2. 中長期的な取組として検討するもの

- (1) 花のまちづくりに係る相談、市民がやりたいことと行政がやるべきことの調整、花のまちづくりの啓発などを行う中間支援機能について検討
- (2) 行政、専門家、市民などが協働で花のまちづくりの現状を確認し、今後の方針を決めていく機会の検討
- (3) はなふるを活用した観光事業の検討

3. 進行管理について

本提言に基づく事項について、令和5年度中に行動計画を策定し、進行管理をしていただきたい。